

中国・大連通信

(北九州市大連事務所活動報告)

【日中連携事業】北九州発の環境技術が中国科学技術部の重要事業に採択！南京市でキックオフ！

ポイント

1. 中国科学技術部とJICAの日中共同プロジェクトに北九環境投資(有)が採択。中国政府の予算や大学のリソースを活用し、中国での市場開拓が一層加速
2. 中国の汚染土壌の約6割を占める、粘土質の土壌の浄化の実証事業を、南京工業大学と共同で開始
3. 政治的に難しい状況下でも、優れた技術と社会ニーズが合致すれば国境を越えて認められることを証明。北九州市にとっても長年の取組が実を結んだ象徴的なビジネス事例となった



1. 「日中連携事業」とは？——日中相互の強みを活かす仕組み

この事業は、中国内の科学技術を統括する中央政府機関である中華人民共和国科学技術部が、独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力して進めている日中共同プロジェクトです。

中国が抱える「環境問題」や「医療」といった課題を解決するために、「日本の企業の技術」と「中国の大学の研究力」を掛け合わせようという取組で、最大の特徴は、採択された事業は主に中国側の予算で実施されるという点です。

採択された日本企業にとっては、中国政府や大学と強力なネットワークが構築でき、巨大な中国市場に進出する足がかりとなります。また、日本企業単独では難しい、中国国内での大規模な実証実験を、政府機関のお墨付きで実施できることも大きな魅力です。

2. 北九州の技術が、中国の「土壌汚染」に挑む

今回、日中双方の厳しい審査を勝ち抜き採択されたのが、若松に本社を置く北九環境投資(有)。北九州学研都市の福岡大学大学院などの支援を受けながら培った、土に付着した有害な重金属を洗い落とす技術を保有している同社は、北九州市環境局環境国際戦略課や大連事務所などのサポートを受けてこれまでも中国で着実に実績を積んできました。

今回挑むテーマは、中国の汚染土壌の約6割を占める「粘土質の土」の浄化。粘土質の土は水分を多く含みドロドロしているため、従来工法では浄化効率が悪く、手間とコストがかかるのが悩みでした。

そこで今回のプロジェクトでは、南京工業大学とタッグを組み、「3つの減らす（3減）と1つの増やす（1増）」を技術戦略の中心に掲げて実証実験を行います。

3減：捨てる土の量、使う水の量、作業時間を減らす

1増：浄化効率を上げる（増やす）

目標は、従来比30%以上のコストダウンと15件の関連特許申請。環境保全とそのビジネス化を両立させる画期的なチャレンジとなります。

3. この採択が持つ「大きな意味」

政治的に厳しい現在のような環境下でも、今回のプロジェクトが認められ、無事に事業のキックオフができたことは「真に優れた、社会ニーズに適応した技術は、国境を越えて必要とされる」ということを証明したと言えます。

これは、北九環境投資(有)にとってはもちろん、中国で環境ビジネスを展開しようとする日本企業にとっても勇気を与える出来事でもあります。

また、同社を長年応援してきた北九州市にとっても、一つの大きな達成と言ってもいいでしょう。

これからも私たちは、現地のニーズと北九州の技術を繋ぎ、市内企業の挑戦をサポートしていきます。

本稿の担当 = 北九州市大連事務所 山口 (suozhang@kitakyusyuu-dl.com)

本稿に対するご感想、大連に限らず中国に関するお問合せなど何かありましたら上記までぜひご連絡ください